

言語の驚異

みなさん、この詩を知っていますか。

「ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなおり」

これは北原白秋の詩です。

私たちは毎日言葉を使って生活しています。でもなぜ使うかはいちいち考えません。当たり前のことですから。でも言葉なしに人生を想像できるでしょうか。言葉があってこそ人生の意義があります。

言葉は単に音や線だけではなく、相手の気分を変えるという力を持っているものです。話す人の心や声の調子が大きな影響を与えることもあります。例えば、最近、私は友達に曲を紹介されました。聞いてみると、何度も聞きたくなるほどいい気持ちになって、本当に癒されました。ウクライナ語の子守歌でした。その言葉のひびきがとてもやさしかったのです。

私たちは毎日職場や学校で、言葉によるコミュニケーションをとる時あまり意識せずに言葉を使っています。でも、言葉には「一字千金」とか「言わぬが花」という言葉があるようにプラスの面とマイナスの面があります。日本では「男は黙って」という考えの人が多いようです。例えば、スペインでは恋人にも、妻にもよく「Te quiero・愛している」と言いますが、日本人だと結婚したら「愛している」と言わなくなると聞きました。口に出さなかったら思っている気持ちも伝わりませんよ。

言霊という言葉があるように、昔から人間は言葉が人を守ったり、言葉が人を傷つけたり、元気にさせたりするという特別な力があると信じてきました。例えば「物言えば唇寒し秋の風」のように、余計なことを言うと災いを招くということわざもあります。また、「おはよう」という短い挨拶の言葉だけでも、話す人が私たちの存在を認めてくれていると幸せになるような魅力的な面もあります。

私は、毎朝、小学校の近くにいる緑のおじさんに「おはようございます」とか「いってらっしゃい」と言ってもらって幸せになります、学校の近くの工事現場の人に「Have a nice day!」と言ってもらうと、楽しくなります。私はスペイン人ですけどね。

また、他の例として「口では大阪の城も建つ」ということわざもあります。口では無責任に色々なことが言えます。ただ、なんとなく話したり聞いたりしたとしても、話す人にも聞く

人にも責任があります。ある時、友達に心配なことを打ち明けられたので、私は大丈夫だよという気持ちを伝えるつもりで、つい冗談を言ってしまいました。でもその友達は黙り込んでしまいました。気持ちをわかってもらえないと思ったのでしょうか。私がなに気なく言った言葉で友達を傷つけてしまいました。同じ言葉でも言い方によって、聞く人の気分を変えることもあります。「是非遊びに来てくださいね」とか「また今度ね」も本当の気持ちを表していることがありますが、ただ決まり文句として使われた場合は相手を嫌な気持ちにさせることもあるでしょう。

最初に紹介した北原白秋の詩はこんな風に終わります

「きれいなことばは きれいな心
やさしいことばは やさしい心
ひとつのことばを 大切に
ひとつのことばを 美しく」

私も話すとき、注意して言葉を選び、相手の気持ちを考えて使いたいと改めて思いました。